

# 『ブームスはお好き』

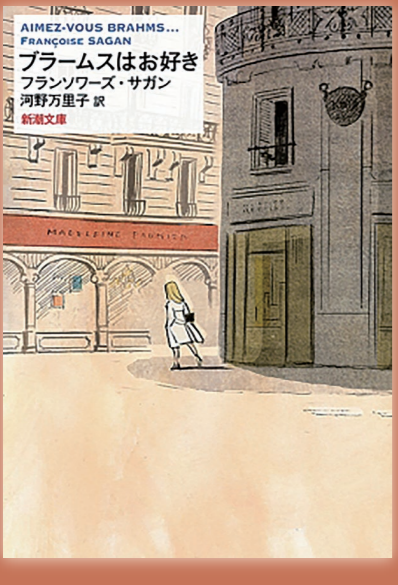
フランソワーズ・サガン・著  
河野 万里子・訳  
出版社：新潮社（新潮文庫・刊）  
ISBN：978-4-10-211829-0

ラーラーラー、シャバダバダ、シャバダバダー♪（映画『男の女』のテーマ）パリと言えば、セーヌ川河畔に寄り添う恋人たちの姿を思い浮かべてしまうほど、私には「恋のまち」のイメージがあります。

この小説は、まさに直球ど真ん中(!)のパリを舞台にした恋愛小説。（しかもあのサガン女史です!）

成熟した男性ロジェと、青年シモンとの間を揺れ動く39歳の主人公ポール。その心の動きがとても繊細にパリを舞台に描かれます。驚くのは、もう自分は若くないと感じ、青年の求愛

にためらいを見せる主人公を、当時24歳のサガンが書いていること。早熟の天才ですね。



## 桶川市立中央図書館スタッフが選んだオススメ本「パリ特集」

『パリ16区 美しく生きる人の12か月』 家名田 馨子・著  
出版社：SBクリエイティブ ISBN：978-4-7973-8472-7  
素敵なパリジェンヌのすてきな生活！

『フランスの色』 コロナ・ブックス編集部・編  
杉本 秀太郎、谷川 渥・文  
出版社：平凡社 ISBN：978-4-582-63450-1  
フランスならではの食・文化・伝統を色で解説した本です。

『フランス伝統菓子図鑑 お菓子の由来と作り方』 山本 ゆりこ・著  
出版社：誠文堂新光社 ISBN：978-4-416-51964-6  
いろんなお菓子の歴史がわかる目で見ておいしい本です。

『フランス映画旅行』 池波 正太郎・著  
出版社：新潮社（新潮文庫・刊）  
ISBN：978-4-10-115648-4  
パリはハリウッドを凌ぐ映画の都。時代小説の大家による映画をめぐるパリの旅。

『イラスト図解 オリンピック競技 おもしろ大全』 雑学総研・著  
出版社：KADOKAWA  
ISBN：978-4-04-604540-9  
4年に1度の祭典をより楽しむ。

テーマに沿った本を  
図書館に  
蔵書があるものから  
選んでみました。  
図書館を  
是非ご利用ください。



## OKEGAWA hon プラス+とは

OKEGAWA hon プラス+ イベントスペースでは、OKEGAWA hon プラス+ 運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）が主催して博物館、大学、出版社等と連携し、桶川の市民サービス向上のため、子ども向けから大人向けまで幅広い世代を対象とした学びのサポートをしています。

OKEGAWA hon プラス+でのイベントの予定についてはこちらをご覧ください▶



おけがわマイン 3F  
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2  
**OKEGAWA hon プラス+**  
☎ 048-786-6353 桶川市立中央図書館  
発行者：OKEGAWA hon プラス+ 運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）  
「202407」



# OKEGAWA hon プラス+ 通信

No. 27  
不定期発行



テーマは

## パリの本特集

パリという名前を聞くだけで、おしゃれな街並み、美味しい料理、総じてロマンチックなイメージが頭に浮かんでくる人も多いのではないのでしょうか。

街全体が美術館のような雰囲気漂わせるパリは、歴史と文化、芸術、美食に満ちた場所として世界中の人を魅了してやみません。

今年はパリオリンピック・パラリンピックが開催されています。

この機会に、様々な視点からパリを感じる書籍を厳選して、OKEGAWA hon プラス+スタッフがおすすめします。魅惑のパリに思いを馳せ、新しい発見や気づきを得る読書を、ぜひお楽しみください。



## 若き天才たちはパリのカフェに集った

# 『カフェから時代は創られる』

飯田 美樹・著  
出版社：クルミド出版  
ISBN：978-4-99075835-6



学校でもない、職場でもない、リラックスできる場所。本の表紙にあるような素敵なオープンテラスのパリのカフェには、二十世紀前半に多くの若き天才たちが集まり、違うテーブルの人とも気軽に会話し、つながり、才能が見つけ出されていく場でした。カフェでの予期せぬ出会いによって、創造や表現が次々と生まれ、人が育ち、歴史を代表する新しい思想や芸術が生まれていきました。

これまで私は「一人で静かに」、コーヒーと読書で過ごすのがカフェの醍醐味だと思ってきました。この本でパリのカ

フェの軌跡と裏側を覗いて、カフェという場がもたらすチカラ、可能性に対する見方が大きく変わります。





パリ！パリ！パリ！

『小さなフランス図鑑』

小林 克己・監修  
出版社：三オブックス  
ISBN：978-4-86673-408-8



パリだけではなく、フランスについてコンパクトに知ることができる、オールカラーのおしゃれできれいな本です。

エッフェル塔やシャンゼリゼ通りなどのパリの名所から、食べ物やファッション、歴史、芸術、言葉まで。ふむふむ、フランス料理と一口に言っても、プロヴァンス料理、ブルゴーニュ料理・・・色々あるんだな。車もルノーに、シトロエン、プジョーもか。かわいい車だな・・・。映画はヌーヴェルバーグか・・・。

一度は行ってみたい憧れのまち。でも、まずはこの本片手に近くのカフェで、クロワッサンにエスプレッソといきますか。



これもパリなのか・・・

『ねむれ巴里』

金子 光晴・著  
出版社：中央公論新社（中公文庫・刊）  
ISBN：978-4-12-204541-5

ねむれ巴里



中公文庫

昭和初期のパリで、詩人金子光晴が妻と二人で暮らした、まさに壮絶な二年間の記録です。

とにかく彼らにはお金がない。本当はない。「はじめから乞食でも、泥棒でもやっていいつもりで」パリにたどり着いた金子は、ひたすら金策に悪戦苦闘します。「いまはパリに夢などなにもなかった」。

生活苦の中、その日その日乗り切っていく彼らにとって、パリは少しも優しくも「華のパリ」でもありません。

「パリに来て食いつめている(中略)日本人が百人以上はいる。」「彼らは、もともと向学心に燃えて、純真な気持ちでパリに来たが、故郷

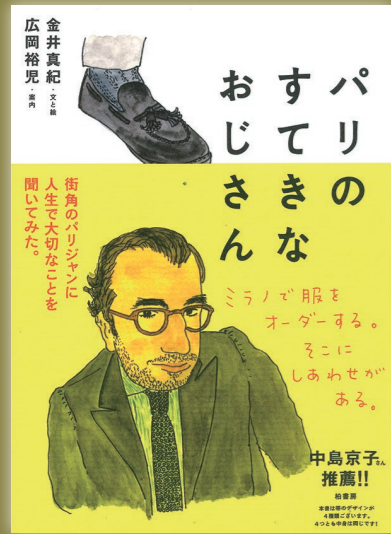
との連絡も絶え、当初の志もむなしく、不正を働くか、窮死するかのところに追い込まれている。」もう一つのパリが、ここにあります。

どの街でも探そう、すてきな人々

『パリのすてきなおじさん』

金井 真紀・絵 / 文  
広岡 裕児・案内

出版社：柏書房 ISBN：978-4-7601-4911-7



おすパ  
じてり  
さきの  
んな

著者は、多様性をテーマに、素敵なイラストを添えたインタビューの本をいくつも出版しています。今回のモチーフはなんと、パリのおじさん。本の帯の種類がいくつもあり、書店でこの本を探するときには、好きなおじさんを選べる楽しみもあります。

パリの街角で出会った総勢67人のおじさんの、貫禄のあるお腹や渋いシワ、ほがらかな眼差しなど、個性的で魅力的な特徴がスケッチされています。彼らが語る物語を通して、世界の混沌とした現実や人生の味わい深さが浮かび上がります。不思議なことに、これらの物語を味わっていると遠い国での出来事を傍観している気分には

なりません。人々が笑い、悩み、懸命に暮らしている豊かな街が世界中にあることを改めて感じさせてくれるのです。

軽やかに歩く、旅人の元祖

『林芙美子紀行集 下駄で歩いた巴里』

林 芙美子・著  
立松 和平・編

出版社：岩波書店（岩波文庫・刊） ISBN：978-4-00-311692-0

林芙美子紀行集  
下駄で歩いた巴里

立松和平編



昭和5年「放浪記」がベストセラーとなり、芙美子は急激な人気を博した。翌年はシベリア経由で渡欧すると、半年余りをパリ、ロンドンで過ごした。小説を書くのは悪人が得てくれているように楽しいと言いつつ、「苦しいことは山ほどある。一切お断りして歩くことにしている。旅を受した作家の、旅の時の記す20篇。

169-2  
岩波文庫

『放浪記』がベストセラーになった林芙美子さんによる、昭和初期に書かれた紀行文です。充分にお金も用意せず、鞆ひとつに辞書を入れてふらりと外国に出かけていってしまう、フットワークの軽い林芙美子さん。綴る文章も、その様子に似てとても軽やかです。カランカランと音を立てて堂々とパリの街並みを下駄で歩くシーンを想像すると嬉しくなってしまいます。

宿のこと、食事のこと、花のこと、街並みのこと、美しい女性のこと。インターネットもガイドブックもなく、林芙美子さん自身が歩いて見つけ、感じたパリが等身大に書き綴られ、文学者としての深い洞察の記述

にはときどきはっとさせられます。自由に旅をしてもいいというのも難しいものです。林芙美子さんは、紛れもなく旅の才覚をもった人で、旅人の元祖と言えるでしょう。

中央図書館、福川図書館に蔵書があります